

お知らせ

愛媛大学医学部附属病院では、医学・医療の発展のために様々な研究を行っています。その中で今回示します以下の研究では、患者さんのカルテ及び心臓カテーテル検査の記録を使用します。

この研究の内容を詳しく知りたい方や、カルテやカテーテル検査記録を利用することにご了解いただけない方は、以下の【お問い合わせ先】までご連絡下さい。

【研究課題名】

労作性狭心症患者での光干渉断層法による冠動脈構造と冠血流予備量比の相関性の比較（後ろ向き研究）

【研究機関】 愛媛大学医学部附属病院

【研究機関の長】 杉山隆（病院長）

【研究責任者】 山口 修（循環器・呼吸器・腎高血圧内科学講座 教授）

【研究の目的】

戦後国民の生活水準が向上して食生活を含む生活習慣の欧米化が進み、狭心症や心筋梗塞などの虚血性心疾患のリスクが本邦においても増加の一途を辿っております。労作性狭心症の治療に関しては、虚血の診断及び重症度がより重要視されるようになってきており、**FFR(Fractional flow reserve, 冠血流予備量比)**の有用性が確認されています。この指標に基づき治療を施行した場合、虚血性心疾患の予後が改善することが報告されており、現在国際的にも**FFR**が高く評価され、本邦においても使用頻度が年々増加しております。一方、光干渉断層法(OCT)などの冠動脈内評価装置も著しく進歩しています。**OCT**は、冠動脈内構造を詳細に観察することが可能です。今回我々は流体力学を応用し、**OCT**から得られた冠動脈の構造から**FFR**を計算する新たなアルゴリズムを作成しました。**OCT**から得られた冠動脈の解剖学的情報にもとづいて計算されたバーチャルな**FFR**と圧センサーを用いて測定された**FFR**の関係を明らかにすることが今回の研究の目的です。

【研究の方法】

(対象となる患者さん) 愛媛大学医学部附属病院で 2014 年 4 月から 2021 年 6 月に冠動脈造影検査を施行された患者様の中のうち OCT と FFR を同時期に測定された患者様を対象とします。

(利用するカルテ情報) 性別、年齢、発症時期、既往歴、血液検査データ、画像検査データ、カテーテル検査データ 等

【個人情報の取り扱い】

収集した試料・情報は名前、住所など患者さんを直接特定できる情報を削除いたします。そのため個人を特定できるような情報が外に漏れることはありません。また、研究結果は学術雑誌や学会等で発表される予定ですが、発表内容に個人を特定できる情報は一切含まれません。

<情報の管理責任者>循環器・呼吸器・腎高血圧内科学講座 氏名 清家 史靖

さらに詳しい本研究の内容をお知りになりたい場合は、【お問い合わせ先】までご連絡ください。他の患者さんの個人情報の保護、および、知的財産の保護等に支障がない範囲でお答えいたします。

【お問い合わせ先】

愛媛大学医学部附属病院循環器・呼吸器・腎高血圧内科学 清家 史靖
791-0295 愛媛県東温市志津川
Tel: 089-960-5303